

(別紙1) 東大阪市地域経済循環創造事業（ローカル10,000プロジェクト）における地域課題

所属名	地域課題	民間事業者に期待される事業の例
1 企画財政部	企画財政部では、ふるさと納税をとおして市の魅力発信を行い、関係人口の拡大に取り組んでいるところである。今後、更に多くの人に東大阪市を寄附先として選択してもらうためには、東大阪の魅力が詰まった新たなヒット商品を開発することが必要である。	東大阪市ならではの資源を活用した新たな地場産品を開発、生産することにより、ふるさと納税のお礼品としてだけでなく、市の来訪者に訴求する新たなお土産品となり得る。お礼品の開発により、市内経済の活性化、関係人口の増加につながることを期待される。
2 都市魅力産業スポーツ部	<p>都市魅力産業スポーツ部では、本市の魅力である「モノづくり」「スポーツ」といった地域資源を活用し、交流人口の拡大や地域経済の振興などに取り組んでいる。特に大きな特徴や成果としては以下の内容が挙げられるが、同時に課題も残っている。</p> <p>①おおさか東線が大阪駅までの乗り入れを実現したことで、本市の利便性は飛躍的に向上し、インバウンドや府外からの流入を呼ぶインフラが整備された。現時点においては、その効果は不透明であるが、今後の交流人口増大に向けた大きな可能性を秘めている。</p> <p>②本市には複数の大学が立地し、一定期間、多くの若者が本市に在住する機会を得ている一方で、それらの市内産業への就業や商業面への結びつきは十分とは言えず、本市への定住等にも繋がっていない。</p> <p>③本市モノづくり企業が長年の課題としてきた「住工共生のまちづくり」を推進する手法として、また「モノづくり」の魅力を発信する場として、従前よりオープンファクトリーが開催されており、一定の評価を得ている。同様の取組は全国や府内でも広がりを見せ、更なる拡大が期待できる。</p>	<p>①万博を契機に本市の地理的利便性を市外、府外在住者及びインバウンドにもアピールし、併せて、恒常的なにぎわいを創出できる取組みを企画することで、交流人口の増大を一過性では終わらせない取組みの構築。</p> <p>②市内企業の魅力を掘り起こし、市内の大学在学者や未就業者等に伝わりやすい内容に置き換え、効果的に発信する仕組みづくり等、支援手法の構築。また、修業後や就職した後も生活や経済の拠点として定着してもらえるような、本市の魅力を発信することが必要。都市魅力産業スポーツ部としては市外や都市部への利便性を武器に商業面でのポテンシャルの掘り起こしを事業者に期待したい。</p> <p>③オープンファクトリー参画への裾野を広げるため、新たに事業者を開拓する営業力を持ち、また目的を同じくする類似イベントの開催を企画できる体制や仕組みについて、民間事業者が有するコネクションやノウハウを活用した構築を期待したい。</p>
3 交通戦略室	<p>①東部地域は急傾斜地や狭隘な道路も多く、駅やバス停へのアクセスが困難で、タクシーの配車にも時間を要する状況も見受けられることから、市民の移動手段を確保する必要がある。</p> <p>②交通事故の削減や高齢者等の移動手段の確保、運転手不足による路線バス等の減便や休止といった地域交通に関する課題に対する施策が必要となる。</p> <p>③公共交通機関の利用者が減少している。 駅前空間に十分な賑わいが創出されていない。</p>	<p>①乗合交通システムを搭載した車両による乗合交通事業</p> <p>②自動運転移動サービスの社会実装</p> <p>③高架下や駅周辺において、公共交通機関の利用促進につながる事業を展開することで、駅前の賑わいを創出するとともに、既存の公共交通機関の利用者増加が期待され、公共交通事業者の運営の維持につながる。</p>